

新進芸術家海外研修制度 研修結果報告書

研修開始年度 | 令和 3（2021）年度

分野 | 舞踊（バレエ）

研修先 | イギリス（ロンドン）

研修期間 | 1 年

氏名 | 石川 倫

1. 研修目的（課題）

将来の進路や就業につながるような経験を積むべく、元プロフェッショナルダンサーかつ指導経験豊かな先生方による数々のトレーニングや学業を通して、バレエ技術の向上と高い専門知識獲得を達成すること。また、セカンドキャリアを考える貴重な時期とすること。

2. 研修日程

研修先 : English National Ballet School, Birmingham Royal Ballet

所在地 : イギリス（ロンドン）

指導者 : 「English National Ballet School」 Viviana Durante, Juan Eymar, David Yow, Michael Berkin, Nicola Simpson, Liane McRae, Sebnem Onal, Monique Jonas, Emily Gunn, Grant Coyle

「Birmingham Royal Ballet」 Dominic Antonucci, Michael O' Hare, Christopher Saunders, Laura Day

研修期間 : 令和3(2021)年9月13日～令和4(2022)年7月17日

3. 研修内容、成果

A) 研修課題の題目

【課題①】前期アセスメント

【研修内容・方法①】

週6日のバレエ、パ・ド・ドゥクラス、コンテンポラリー、ソロバリエーション、パ・ド・ドゥ、ストレングス・アンド・コンディショニング、ピラティス、ウェルビーイングクラスを受講、リハーサル

【課題②】冬期学校公演

【研修内容・方法②】12月に行われる学校公演の振付・リハーサル準備と出演

【課題③】バーミンガム・ロイヤル・バレエ団公演

【研修内容・方法③】2022年1月25日～2022年3月19日の間、同団『ドン・キホーテ』公演出演

【課題④】後期アセスメント

【研修内容・方法④】

週6日のバレエ、パ・ド・ドゥクラス、コンテンポラリー、ソロバリエーション、パ・ド・ドゥ、ストレングス・アンド・コンディショニング、ピラティス、ウェルビーイングクラスを受講、リハーサル

【課題⑤】 学年末公演

【研修内容・方法⑤】 7月に行われる学校公演のリハーサル準備と出演

【課題⑥】 バレエ団就職活動

【研修内容・方法⑥】 就職活動のための準備

【課題⑦】 その他の活動

B) 研修の成果

【課題①】 前期アセスメント

大幅に達成できた

学期中に掲げた以下2つの目標：

- ① 解剖学の知識を基に自身に必要な筋肉を理解し、正しいプレースメントと安定性を身につける
- ② ヴァリエーションに活用できるテクニックを身につける

以上のことを達成するため、各クラスに加え、毎週担任からのフィードバック、修正点などの見直しを細かに分析し提出してきました。アセスメント当日は落ち着いて自信を持って取り組むことが出来た結果、



アセスメント後にクラスメイトと共に

満足できる成績を収めることができました。成績は学年中（男子学生）最高位をマークしました。

当日は、校長（ヴィヴィアナ・デュランテ）、学校教師、外部から招かれた審査員は次の方々です。（敬称略）

- ・リン・ウォレス（元ロイヤル・アカデミー・オブ・ダンス芸術監督、審査部門長）
- ・ホープ・キーラン（ロイヤル・バレエ・スクール、アーティスティック・ティーチャー/プログラム・マネージャー）

ホープ・キーラン先生は、以前在籍していたロイヤル・バレエ・スクールに11歳で入学した時の最初の担任でしたし、キーラン先生がアセスメント後に「本当に素晴らしかった、美しいダンサーになって！」と褒めてくださり嬉しく思いました。

【課題②】冬期学校公演

達成できた

12月に開催された Winter Showcase は、4日間に渡って校内のスタジオで行われることになりました。依然としてコロナウィルスの感染が心配されていたため、学校による Covid プロトコルに基づいて観客の当日の予約、ラテラルフロー検査実施後、NHS アプリへの登録と入場時の確認、マスク着用、換気への協力などが観客にも求められ、演技者である生徒はマスクを着用しないことへの理解を得たうえで、観客への事前予約が実施されました。

今回は『ライモンダ』『海賊よりアリのヴァリエーション』の2作品へ出演しました。

『ライモンダ』（ルドルフ・ヌレエフ振付版）はいわゆる3幕のみの公演で、4公演中の2公演はジャン・ド・ブリエンヌという男性プリンシパル、残りの2公演はコールドでのキャスティングでした。

踊りは周囲から評価されたのですが、踊っているうちに自分自身の作品への理解が不十分なのでは…と感じ始めました。振付や踊り自体はこなせるものの、この作品の荘厳さやストーリーの理解に費やすための時間や準備が十分ではなかったのではないかと、無難にこなせただけでは観客の方に申し訳ないような気持ちがしていました。

『海賊』のアリのヴァリエーションでは、上手く踊ることが出来たので満足しています。作品を決め自分で振り写しを行い、完成した状態で先生に指導していただくのですが、過去にこの作品を踊った著名なダンサーの映像は Youtube などでも種多様なアリのバージョンを参考に自分の踊りに色をつけてゆくことが出来ます。なかにはアレンジを加え、派手なテクニックで会場を熱狂させているダンサーもたくさん

いましたが、私はあくまで『海賊』というストーリー中の人物として踊ることを意識しました。

この公演で演者として作品を作っていくというに大きな課題に気づけたことに大きな収穫があったと感じています。終演後、観客の皆さんから喜んでいただけたことから、成果を「達成できた」とさせていただきました。



学校公演『アリのヴァリエーション』

【課題③】 バーミンガム・ロイヤル・バレエ団公演

大幅に達成できた

バーミンガム・ロイヤル・バレエ団『ドン・キホーテ』公演へ参加。

バレエ団の芸術監督でもあるカルロス・アコスタの振付作品。2021年12月に、バーミンガム・ロイヤル・バレエ団のアシスタント・ダイレクターである、ドミニク・アントヌッチ氏が来校し、バレエ団公演への出演のオファーを受けました。

ただ、リハーサルから公演終了日が2022年1月25日～2022年3月19日という期間でこの機会に参加させていただくかを悩みました。この期間は、世界中のバレエ団のオーディションシーズンで卒業を前に迎える私には就職の機会を逃してしまう可能性があったのです。

校長先生や担任と相談し、今後のチャンスや経験に結び付くかもしれないという事で、公演に参加させていただくことになりました。

リハーサルに参加することが決定して、同バレエ団のカンパニー・マネージャーと連絡を取り、バーミンガムへ出発しました。

カルロス・アコスタ版『ドン・キホーテ』では、表現力はもちろんのこと、とにかくスピードとテクニックを求められます。また舞台上に多くのキャストが長い間出ずっぱり、配役によってはほとんど舞台にしているような状況になります。私は、カバーも含めて7つの役にキャスティングしていただきましたが、全ての公演が終わるまでに9つの役で作品に関わることができ、想像を遥かに超える素晴らしい経験をすることができました。

同バレエ団は、ツアーカンパニーということもあり、今回はバーミンガム、サウサンプトン、サルフォード、サンダーランド、プリマスのイギリス国内計5か所での公演が行われました。各劇場の2、3日前にはバーミンガムにあるバレエ団の拠点からツアーバスに乗って、各地方へ向かい、劇場でリハーサルやイベントに臨みます。そして数日公演（1日1～2公演）をこなし、夜公演が終わり次第、バスに乗ってバーミンガムへ出発し真夜中に到着するのです。

次のツアーへ出かけるまでの間、バレエ団拠点のバーミンガムで日曜以外毎日リハーサルを行い、次のツアーの準備にとりかかりますが、本格的なツアーカンパニーでの経験は大変貴重なものでした。今回は特にコロナウィルスの影響もあり、カンパニーも地方公演のうちの2日間を中止にせざるを得ない状況で、体調はもちろん毎日の行動に大きな責任を感じながら参加させていただきました。

そんな中でも、日に何度もカンパニーから細かな指示や計画のアップデートが届くだけでなく、コロナの影響下が残るなかで安全に公演を続けていくために行われる、芸術監督、バレエ・スタッフの決断や、カンパニー・マネージャーのスケジュール管理やきめ細かな指示や配慮に驚きました。

またこの公演中に、同バレエ団のプリンシパルの厚地康雄さんの退団公演、水谷実喜さんのプリンシパル昇格のニュースに立ち会うことが出来ました。お二人がどれほどカンパニーの皆さんやお客様に愛されているのかが良くわかる素晴らしい瞬間でした。

【課題④】後期アセスメント

あまり達成できなかった

後期は以下3つの目標：

- ① アラベスクラインの改善
- ② ふくらはぎの持久力をつける
- ③ ジャンプから着地に至る体幹のコントロール性向上

を掲げて練習する計画でしたが、先のバーミンガム・ロイヤル・バレエ団の公演にしたため、公式のスケジュールには参加できず、バーミンガムから戻った翌日に簡単なリハーサルを行い形式上のアセスメントを行いました。

バレエ、ソロバリエーションなどは特に問題なかったのですが、パ・ド・ドウに関しては、リハーサルでは順調だったものの、本番はうまくいかず結果は十分に満足できるものではありませんでした。

バレエ団のリハーサル・公演中は、『ドン・キ・ホーテ』以外にもいくつかの作品やプロジェクトが同時進行しているため、毎日十分なバレエクラスの時間がありません。その間学校ではどんどん練習を重ね、各自の課題や準備を進めている同級生たちがいると思うと焦る気持ちもありました。アセスメント終了後担任のエイマー先生からは、「通常学生はこうしてカンパニー公演に長期間参加した場合、体型やテクニックが衰えがちだけど君はそんなことは全く無かった。これは君がカンパニーで素晴らしい仕事をしたということだ」と声をかけていただき、次の夏公演へ向けて気持ちを新たにすることができました。

【課題⑤】学年末公演

大幅に達成できた

7月の学年末公演ではフレデリック・アシュトン振付の『ラブソディ』のプリンシパルと、アレイン・ダンス・カンパニー振付の『My Home Around Borders』のプリンシパルを演じることになりました。

『ラブソディ』はエリザベス女王の母であるエリザベス皇太后の80歳の誕生日を祝うためにフレデリック・アシュトンがミハイル・バリシニコフ主演で作った演目です。

ダンサーとしてこんなに有名な作品のプリンシパルを踊らせていただくことに感謝しつつも、過去に演じた偉大なダンサーたちを思うと同時に恐ろしくなりました。

ロイヤル・バレエ団で4～5月の間にかけ、“トリプル・ビル”の一つに『ラブソディ』も上演されており、3度ロイヤル・オペラ・ハウスでスティーブン・マクレイ、セザール・コラレス、それぞれのバージョンのラブソディを観劇しました。

また、5月末にはロイヤル・バレエ・スクールを会場にチェケッティ・ソサエティ・トラスト主催のイベントがあり、『ラブソディ』のロイヤル・バレエ団のカルヴィン・リチャードソンとレティシア・ディアズのパ・ド・ドウを1980年の初演で女性プリンシパルを踊ったレスリー・コリア氏が指導するという貴重なクラスを見学させていただきました。チェケッティのシラバスは、その後のブリティッシュバレエに大きな影響を与えており、本作品にもチェケッティのスタイルが活かされています。

学校公演の指導に当たってくださったロイヤル・バレエ団のグラント・コイル氏からも、数週間に及ぶリハーサルのなかで信頼されていると強く感じる事が出来、公演中の自信に変えることが出来ました。公演は2日間に及びましたが、私は初日にプリンシパルを踊り、2日目は急遽病欠となったクラスメイトのカバーでラブソディのコールドに入りました。

初日はイギリス国内のバレエ関係者や評論家を招き、公演は大変満足の行くものとなりました。公演後お客様からお褒めのお言葉をたくさんいただいた、と先生方に聞き本当に嬉しく思いました。



『ラブソディ』公演にて

【課題⑥】バレエ団就職活動

あまり達成できなかった

本来卒業年の大きなミッションは、就職を決めることだと思っています。

私はその為に、研修を開始した当初より準備を重ねてきました。まずは履歴書の準備、オーディション写真、ビデオの撮影、バレエ団への応募などが主になります。

バレエ団への応募はヨーロッパを中心に行ってきました。各カンパニーは、興味がある応募者に対してカンパニーオーディションへの招待メールを送ってくれるのですが、やはりその多くがこの報告書Ⅲで述べた、バーミンガム・ロイヤル・バレエ団の公演期間中の招待でした。

覚悟はしていましたが、他のバレエ団公演に参加しているのでオーディション期間をずらしていただけるよう交渉することは容易ではなく、それでも「4月に改めて連絡をしてほしい」と言ってくださったバレエ団も、既にオーディションで人員を確保してしまったと次々に連絡が入りました。

私が最終的にオファーをいただいたのは、アメリカのバレエ団とルーマニアのバレエ団の2か所でした。

また、あるイギリスのバレエ団は、私に対して強い興味を示してくだっただのですが、今年度の採用は労働許可を所有している者に限るとのことになり、現時点では学生ビザしか所有していないため、採用には

至りませんでした。せっかくオファーをくださるカンパニーがあった訳ですが、私は日本から 9 歳の時にイギリスに渡り、今年永住権申請が可能になったため、思い切って申請を行うこととしました。永住権申請が許可された際には、改めてイギリス国内でバレエの仕事に就きたいと思い、現在もイギリスに滞在しています。

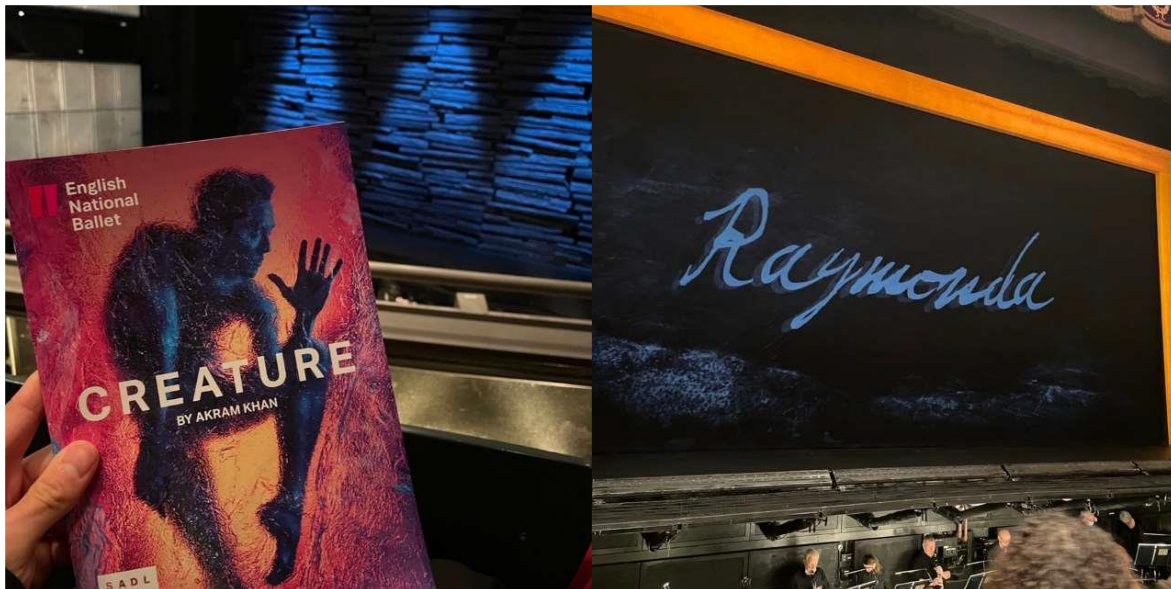


オーディション写真の一部

⑦その他の活動

大幅に達成できた

- ・ローザンヌ国際バレエコンクール、コレオグラフィック・コンペティションに学校から応募するメキシコ人生徒の振付作品にダンサーとして参加
- ・学校公式ホームページ、SNS、Youtube 等で “Student Hardship Fund” 協力のためのインタビュー動画撮影に協力
- ・イングリッシュ・ナショナル・バレエ団作品『Creature』『Raymonda』観劇
- ・ロイヤル・バレエ団『Triple Bill』観劇



イングリッシュ・ナショナル・バレエ公演観劇

C) 研修成果の活用計画

私の目の前の夢は、やはりプロのバレエダンサーとして生きていくことです。そして今後もブリティッシュ・バレエを担う一人の人間として活動を行っていきたいと思っています。

研修先校長のヴィヴィアナ・デュランテ先生と話し合い、10月からイングリッシュ・ナショナル・バレエ・スクール・トレーニング・プログラムに在籍することになりました。それまでの期間は、イングリッシュ・バレエ・スクールの3年生のクラスをベースに好きなクラスを受講して構わないという許可をいただきました。また、学年末公演後、イギリス国内での中規模なバレエカンパニーのいくつかからオファーをいただきましたが、そのなかで、アンドリュー・マクニ科尔氏主宰のカンパニーでアプレンティスとしても在籍できるよう準備を進めています。

私の大きな武器はイギリス国内での経験や人脈であると考えています。

今回研修員として活動させていただいた経験が、今後ダンサーとして、そしてセカンドキャリアとしても、イギリスはもちろん、いつの日か日本のバレエ界へ貢献できれば素晴らしいと考えています。

D) 研修国の情報

イギリスの主な美術館や博物館は基本無料で入ることが出来、入場料は必要ありません。その代わりに出口に任意の募金箱が置いており、興味を持つ人たちは何度でもこのような施設へ訪れることが出来ます。

プロのバレエカンパニーはロイヤル・バレエ団のように専用の劇場で長期公演を行うバレエ団は多くありません。イギリス国内の多くのバレエ団は主に自分たちの拠点の劇場以外にイギリス国内の地方の劇場を利用してツアーカンパニーとして活動しています。

イギリスのバレエ教育は様々なレベルで行われています。

職業学校としてのバレエ学校では11歳で初めてのオーディションが行われます。その多くは、政府の資金援助が受けられる全寮制です。(資金援助の程度は学校のレベルや家庭の状況によって変わってきます) 入学に十分なレベルを持っていたとしても、家族との時間や学業を優先したい場合は、普段は地元の学校とバレエ教室へ行くのですが、オーディションに合格すれば週末だけロイヤル・バレエ・スクールなどの外部生として受講で出来ます。

職業としてではなく、純粋にバレエを楽しみたい子は18歳頃まで、地元のバレエ教室に通うこともできます。イギリスのバレエ教室では年齢とレベルに併せたグレード試験を受け、国の機関が資格として認定しています。大学進学の際や履歴書にも記入することが出来るもので、高校生の子でもバレエを続けている子は少なくありませんでした。

バレエコンクールは日本ほど開催されていないようです。